

グリーティング

久しぶりに中国から友人がやってきました。彼は漢方医で日本留学の経験もあり、かなりの日本通です。笑顔で再会のあいさつをして一息ついたところで、「お金が無くなった。いつ、どこかわからないけど、私は困りました。」とたどたどしく話すのです。ポケットのコインで切符を買い、電車の中で財布がないのに気が付いたそうです。食事中もうわの空で、一緒にいる私たちもおちつきません。翌日、「残り2日の日本を気を付けてすごして下さいね。」と少額のお金を手渡しました。「このお礼はいつか・・・」恐縮しながら彼は東京に向かいました。さてその晩です。「ありました。全部ありました。日本はいい国です。やっぱりいい国です。」電話の向こうの弾んだ声。どうやらホテルで紛失して、ロビーに届いていたようです。よかったあー、ほっとして窓の外を見ると、山の紅葉が一段ときれいでした。 S.K



相模湖近辺の紅葉 11/18

技工情報

～ より良い総義歯製作をめざして ～ 印象材編

現在、市販されている印象材の中には、操作性や寸法安定性、細部の再現性に優れた材料が沢山ありますが、今回は義歯製作において代表的なアルジネート印象材とシリコン印象材について特徴やポイントなど簡単にまとめてみたいと思います。

アルジネート印象材

硬化が早く、簡便ではあるが辺縁の形態などは記録しにくいいため模型辺縁が大きくなりやすい。また、離水乾燥、膨潤など水の量や温度による影響が大きい。



Point

1. 夏場などは温度（気温）などに注意し、印象採得後は時間をおかずになだちに石膏を注入する。
2. アルジネートでの超硬質石膏の使用は、面あれしてしまうため硬質石膏までとする。
3. 個人トレーの使用は、接着性があまり良くないためシリコン印象と同様にアルジネート用接着剤を使用する。

シリコン印象材（重付加型）

硬化がシャープで寸法変化が少ない。以前のものは操作性などあまり良くなかったが、機能運動を記録するたに硬化時間と速度が適度なものを選択でき、石膏との相性も良くなってきているため近年主流になっている象材のひとつである。



Point

1. 重付加型以外にもさまざまな用途に適した印象材がありますが、水中で膨潤するものや、あまり時間をおかずに石膏を注入しなければならないもの、硬化後少し時間をおいた方がよいものなどもあるので、使用材料の用法注意点など把握しておく必要がある。